

2016年(平成28年) 3月18日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/3~3/9のNYMEX・WTIは、4か国による原油市況対策の会合への期待から続伸し、34~38ドルで推移した。

3月10日は、いったん20日とされた4か国(サウジアラビア、ロシア、ベネズエラ、カタール)の会合の開催を危ぶむ見方が出たことから反落した。4月限の終値は、前日比0.45ドル安の37.84ドルとなった。

週末11日は、IEA(国際エネルギー機関)が原油価格は底入れした可能性があるとして報告したことから反発した。4月限は、前日比0.66ドル高の38.50ドルで終了した。一時は39ドル台を記録した。

週明け14日は、4か国による会合が4月半ばに延期になる可能性があるとの発言や、イランが400万b/dまで生産が回復するまで凍結議論には参加しないと述べたことから反落した。4月限の終値は、前日比1.32ドル安の37.18ドルで終了した。

15日は、4か国による会合が4月にずれ込み、またイランが増産凍結の枠組みには加わらない可能性が高まったこと、OPEC(石油輸出国機構)の2月の生産が引き続き高水準であったことなどから続落した。4月限の終値は、前日比0.84ドル安の36.34ドルで終了した。

16日は、3月20日に予定されていた産油4か国の会議が4月17日にカタールでの開催に延期となったと公式に発表があったが、イランなどの参加が見込めるとの報道で値上がりした。EIA(米エネルギー情報局)の石油統計で、原油在庫の増加が予想を下回ったことも、追い風となった。4月限の終値は、前日比2.12ドル高の38.46ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(5月

渡し)は、前週は続伸し32~35ドルで推移した。10日は36.10ドル、11日は36.00ドル、週明け14日は35.70ドル、15日はやや軟化し34.50ドル、16日は34.80ドル。

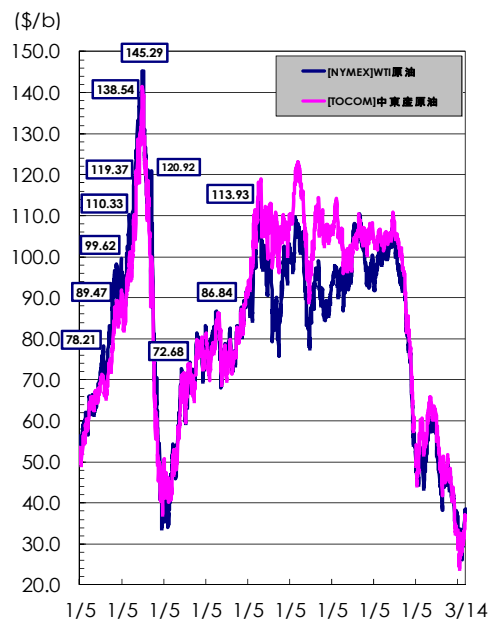
為替は、前週は小幅な動きにとどまり112~113円台で推移した。10日は113.31円、11日は113.29円、週明け14日は113.89円、15日は113.90円、16日は113.31円でほぼ横ばい。

財務省が17日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、2月下旬の原油輸入平均CIF価格は、21,578円/klとなり、前旬を138円下回った。ドル建てでは29.92ドルで前旬比0.95ドル高。為替レートは1ドル/114.66円。また同時に発表された貿易統計速報(月間ベース)によると、2月の原油輸入平均CIF価格は、22,427円/klとなり、前月を5,411円下回った。ドル建てでは30.36ドルで前旬比6.65ドル安。為替レートは1ドル/117.43円。

主要元売会社の3月第3週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、横ばいから2.0円の値上がりだった。原油の値上がり円安によりコストの値上がりが続いている。

そのような中で、3月14日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの112.1円、軽油は横ばいの97.1円、灯油は0.1円値下がりの61.0円となった。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は4週振りに横ばい、灯油は4週連続の値下がり。この週の原油コスト、元売りの卸価格は値上がりで、20都道府県で値上がりした。

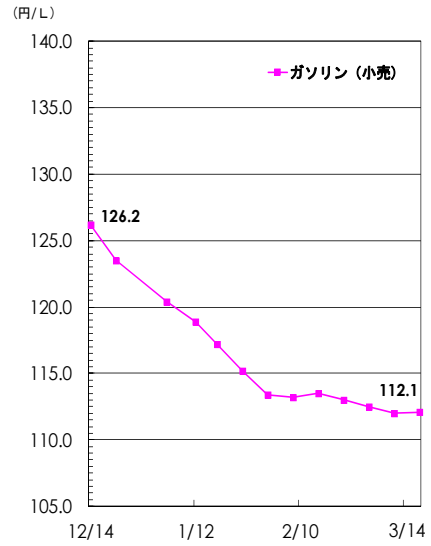
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/6 ~ 3/12	3,839 ▲ 34	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.1 ▲ 0.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/12	14,848 ▲ 312	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/14	36.50 ▲ 0.73	▼ -17.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/14	37.18 ▼ -0.72	▼ -6.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月下旬	29.92 ▲ 0.95	▼ -19.62
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	21,578 ▼ -138	▼ -15,200
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	114.66 ▲ 4.50	▲ 3.38
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/14	114.89 ▼ -0.19	▲ 7.51



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/6 ~ 3/12	1,076 ▼ -22	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	864 ▼ -72	▼ -	
	輸出	"	122 ▼ -57	▲ -	
	在庫	3/12	1,766 ▲ 89	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/8 ~ 3/14	33.9 ▲ 1.1	▼ -25.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/8 ~ 3/14	37.3 ▲ 1.9	▼ -20.4
		(TOCOM/中部)	3/14	36.4 ▲ 1.0	▼ -19.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/14	112.1 ▲ 0.1	▼ -28.2	

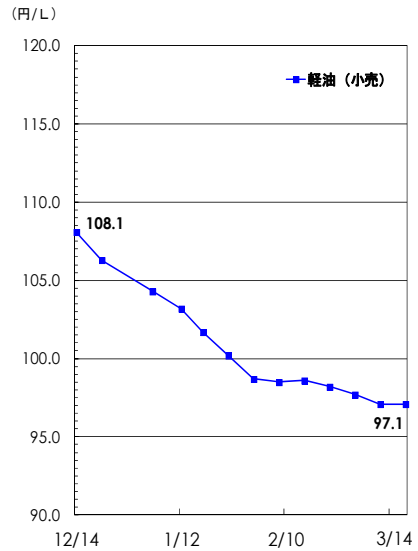
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

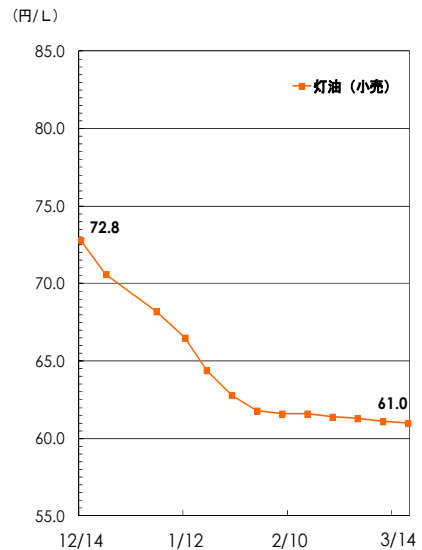
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/6 ~ 3/12	816 ▲ 123	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	679 ▲ 69	▲ -	
	輸出	"	184 ▲ 62	▲ -	
	在庫	3/12	1,450 ▼ -46	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/8 ~ 3/14	32.9 ▲ 0.2	▼ -20.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/8 ~ 3/14	36.3 ▲ 0.3	▼ -18.1
		(TOCOM/中部)	3/14	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/14	97.1 ➡ 0.0	▼ -22.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/6 ~ 3/12	459 ▲ 49	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	443 ▼ -64	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/12	1,223 ▲ 17	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/8 ~ 3/14	34.4 ▼ -1.0	▼ -22.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/8 ~ 3/14	33.4 ▲ 0.5	▼ -21.9
		(TOCOM/中部)	3/14	34.0 ▲ 1.2	▼ -19.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/14	61.0 ▼ -0.1	▼ -23.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

16日のNYMEX市場のWTI原油は、3月中旬に予定された産油国の原油安対策の会合が4月に延期になったものの、市場対策への期待から続伸した。

カタール・エネルギー相によると、3月20日にモスクワで開催予定だった4産油国の会合は、4月17日にカタールでの開催と延期になったが、イランも参加する用意があるという報道で、市況対策への期待が高まった。EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想(340万バレル増)を下げ見送りもドル安を招き原油価格には追い風となった。

4月限の終値は、前日比2.12ドル高の1バレル38.46ドル、5月限の終値は、前日比1.92ドル高の1バレル40.00ドルだった。

EIAによると、3月14日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比12セント値上がりの1ガロン1.961ドル(59.4円/ℓ)となった。ディーゼルは7.8セント値上がりの2.099ドル(63.6円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に4週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月6日～3月12日に休止したトッパー能力は、26.2万バレル/日と先週から3.6万バレル/日の減少。(全処理能力は391.7万バレル/日)。

原油処理量は383.9万kl、前週に比べ3.4万kl増。前年に対しては、0.8万klの減少。トッパー稼働率は88.1と前週に対しては0.8ポイントの増加、前年に対しては0.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.0%減、ジェット/17.4%減、灯油/11.9%増、軽油/17.7%増、A重油/5.8%増、C重油/18.2%減。今週のC重油の輸入は4.0万kl(前週比4.2万kl減)。軽油の輸出は18.4万kl(前週比6.2万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではジェット、軽油、C重油で増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油のみが増加し、その他の油種で減少した。年度末が近づくと、出荷は依然として低調から抜け出せずに、ガソリンで86.4万kl(対前週7.7%減)と2週連続の100万kl割れ、また2週連続の前年割れとなった。

ジェット11.6万kl(対前週197.4%増)、灯油44.3万kl(対前週12.6%減)、軽油67.9万kl(対前週11.3%増)、A重油23.9万kl(対前週19.8%減)、C重油33.8

万kl(対前週2.7%増)。

(単位:千KL)

	今週 (3/6 ~ 3/12)	前週 (2/28 ~ 3/5)	前週比
ガソリン	864	936	▼ -72 (-8%)
ジェット燃料	116	39	▲ 77 (197%)
灯油	443	507	▼ -64 (-13%)
軽油	679	610	▲ 69 (11%)
A重油	239	298	▼ -59 (-20%)
C重油	338	329	▲ 9 (3%)
合計	2,679	2,719	▼ -40 (-1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月12日時点の在庫はジェット、軽油で取り崩し、その他の油種で積み増しとなった。また前年に対してガソリンは変動なし、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは176.6万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては変動なし。

灯油は122.3万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては18.2万kl少ない。

軽油は145.0万kl、前週差4.6万kl減。前年に対しては15.4万kl少ない。

A重油は73.9万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては3.9万kl少ない。

C重油は208.5万kl、前週差1.3万kl増。前年に対しては2.8万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/12)	前週 (3/5)	前週比
ガソリン	1,766	1,677	▲ 89 (5%)
ジェット燃料	890	895	▼ -5 (-1%)
灯油	1,223	1,206	▲ 17 (1%)
軽油	1,450	1,496	▼ -46 (-3%)
A重油	739	688	▲ 51 (7%)
C重油	2,085	2,072	▲ 13 (1%)
合計	8,153	8,034	▲ 119 (1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月8日から3月14日までの原油コストは、原油価格の値上がり為替レートの円高がやや相殺したものの、値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン87～88円台、軽油32～33円台、灯油34円台だった。海上スポット価格は、ガソリン86～88円台、軽油33～35円台、灯油32～33円台である。また、先物価格はガソリン90～91円台、軽油35～36円台、灯油32～33円台だった。原油コストは値上がりしたものの、製品市況は元売りの卸価格引き上げにもかかわらず全般的に小幅な変動にとどまった。

EMGマーケティングは17日、19日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、灯油は1.0円、それ以外の油種は2.0円それぞれ引き上げる旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりにもかかわらず、小幅な値動きだった。週間のガソリン販売量は、前週に続き100万klを下回る水準だった。

3月第3週(3月17日～3月23日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月8日～3月14日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.1円、軽油は0.2円の値上がり、灯油は1.0円の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.4円、軽油は0.4円の値上がり、灯油は1.4円の値下がりだった。また先物価格は、ガソリンが1.9円、軽油が0.3円、灯油は0.5円の値上がりだった。原油価格は値上がりしたものの、スポット製品価格も全般的に小幅な値動きだった。シーズン終了が近い灯油の値下がりが目立った。

3月第3週の大手元売の卸価格は、横ばいから2.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (3/8～3/14)	前週 (3/1～3/7)	前週比
スポット価格	レギュラー	33.9	32.8	▲ 1.1
	灯油	34.4	35.4	▼ -1.0
	軽油	32.9	32.7	▲ 0.2

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (3/8～3/14)	前週 (3/1～3/7)	前週比
先物価格	レギュラー	37.3	35.4	▲ 1.9
	灯油	33.4	32.9	▲ 0.5
	軽油	36.3	36.0	▲ 0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/8～3/14実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▲ 1.9	▲ 1.5
灯油	▼ -1.0	▲ 0.5	▼ -0.3
軽油	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 0.2
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月14日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの112.1円、軽油は横ばいの97.1円、灯油は0.1円値下がりの61.0円だった。ガソリンは4週振りの値上がり、軽油は4週振りの横ばい、灯油は4週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは20都道府県、横ばいは8県、値下がり19府県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、高知県(前週比0.3円安)の105.4円で、埼玉県(同0.1円安)が106.0円で続いている。最高値は鹿児島県(同0.2円高)の121.7円だった。都道

府県別で最も値上がりしたのは北海道(同1.5円高)で112.1円、最も値下がりしたのは鳥取県(同1.7円安)で110.5円だった。

原油コストは値上がり、卸価格も値上がりしたものの、製品スポット市況は小幅な値動きだった。次週の小売価格は、値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (3/14)	前週 (3/7)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	112.1	112.0	▲ 0.1	08/8/4 185.1
	灯油	61.0	61.1	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	97.1	97.1	▶ 0.0	08/8/4 167.4

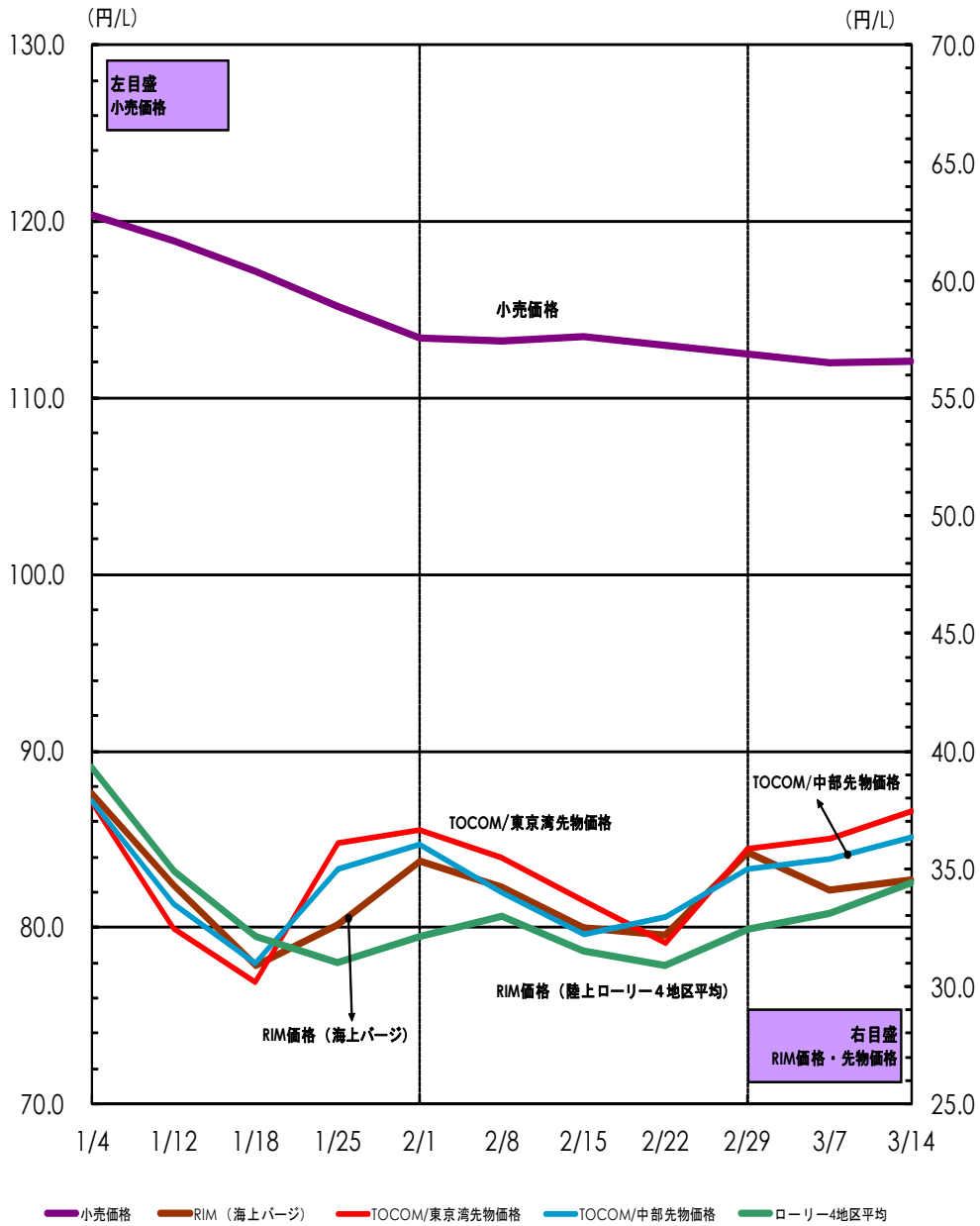
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/1/4 ~ 2016/3/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2015第48号)の公表は、3/25(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年4月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。